

すなお

令和元年12月号



第十二号 九十

おやのことば
なさけない
とのよにしやん
したとても
人をたすける
心ないので



すなお (立教182年12月号)

通 巻 No.713
発行所 天理教瀬戸路分教会
794-0007 今治市近見町4-5-10
☎ 0898-23-5004
FAX 0898-23-5123
発行日 2019.12.16
責任者 二宮英治

今月もおちばでの日々を楽しんでいます。そのためか一日一日があつという間に過ぎていきます。ありがたいことです。

そんな中、先月の後半は何故かおなかの調子が悪く、原因が分からないまま毎日を過ごしていました。そんな時、修養科生さんにおさづけをしてもらおう。と思い、「おさづけをして下さい！」とお願いをしましたら、何十年も前におさづけを頂いてから、初めてのおさづけを取り次いで頂きました。本人はとも緊張していた様子でしたが、その後、私のおなかは回復に向かい今は調子良く食べさせて頂いています。それから数日後、同期の修養科生さんにも「おさづけをさせて頂きました。」と嬉しい報告を聞きました。これは修養科ならではの経験だと思えます。

どんなに思案をして考えた所で、たすけの心、そして行動が無ければ神様は残念だと仰せです。病氣の方が助かるか助からないかは私達の考える所ではありません。私達が助ける訳でもなければ、そんな力が有るわけでもありません。だから、頭で考えるだけでなく、人助けたいという心をもって教祖に代わっておさづけを取り次ぐのです。どうか、身近な方からでもおさづけを通してたすけの心を持って日々お通り下さい。実行あるのみです。

会長



立教183年 元旦祭



明くる年、1月1日午前5時より元旦祭をつとめさせていただきます。おつとめを通して世界の平和を祈念し、新年を迎えさせて頂いた御礼を共に申し上げます。年の初めをまず神様のおつとめから始める。これが一年を守って頂ける理作りになります。朝早くで大変ですが、時間に遅れないようにお帰り下さい。お待ちしております。

なお、前日から宿泊の方がありましたら、奥さんまでお知らせ下さい。

【元旦祭御供物】

元旦祭の御供物を一台からでもさせて頂いて下さい。事前に連絡頂けるとありがたいです。よろしくお願いします。

教会ニュース

餅つき、神殿大掃除

年末の30日の午前9時より元旦祭御供の鏡餅を搗きます。また、同日夕づとめ後に神殿の大掃除をさせていただきます。ひのきしんに是非参加ください。



第一回 中和ようぼくおつとめ総会開催

先月23日（祝）にようぼくを対象としたおつとめ総会が開催され、当教会からは佐々木長行さん野間龍二さんが参加してつとめてくれました。当日、各地から集まった方々とのおつとめはぶっつけ本番でしたので、早さが合わない下りもありましたが、緊張しながらも一生懸命つとめてくださった姿は心に残りました。また来年も同じ日に開催されますので、参加希望の方がいましたら早めに連絡下さい。

訃報

今月7日、長年ようぼくとして教会の上にも真実を尽くされました、村上ユキエ（享年99歳）さんが出直しされました。10日に告別式が行われ、皆さんとのお別れをしました。

婦人会創立110周年 日々の理御供 報告

11月には54,800円を上級葛城へ運ばせて頂きました。2020年4月までつとめさせていただきますので、引き続きよろしくお願い申し上げます。



笑顔の今日

鈴代

人間にだけ神様は笑いを下さいました。
笑いは面白い時 嬉しい時自然に出ます。
笑いは感謝の心に出るのです。
笑いは低い心になった時に出ます。
笑いは悩みも 争いも失くします。
赤ちゃんがこの世で最初に見せる笑顔、
あの笑顔にどんなに多くの人が癒された事でしょう。
笑顔は陽気暮らしの顔 周りの人を幸せにする顔です。
今日の私は何回、笑ったかしら？
作り笑い、ほほえみ、大笑い、転げまわるような笑い、
年とともに忘れかけていた大笑い、取り戻そう。



「信仰家族のすばらしさ」

野間龍二

この一年は、いつにも増して、自分の尺度で評価して、イライラする事ばかりで、挙げ句の果てには、大方の予想通り、身上を頂く羽目になりました。

でも、葛城・瀬戸路・大洋輝に関わる“家族”の皆さんに支えられ、改めてこの信仰の素晴らしさを実感した次第です。

今年もまた、家族との別れが訪れましたが、改めて、“信仰家族”の素晴らしさを、年の瀬に感じ、決意を新たにしたところです。



「喜ばさずには帰されん」

田中道則

今年も終わりが近づき、振り返ってみてとても楽しい1年でした。年明けに結婚をして6月にタオル美術館で式を挙げました。出席してくれた人に喜んでもらいたかったので、3か月かけて余興を考え、信人君と洋平に手伝ってもらって大盛り上がりのおし物が出来ました。信人君のキレキレの動きに会場が沸きました。ふつう新郎は余興を見る側ですが、あえて自分が考え出演したことで出席してくれた方から驚きと喜びの声をもらえました。お道の喜ばさずには帰されんという心が大切だなと感じました。人に喜んでもらう為に骨を折れるようこれからも努力していきたいです。